



## 日本海編

海洋汚染、ゴミの漂流などで美しい海岸線が少なくなっているといわれています。山口県は海に接している市町村がたいへん多く、海から学ぶもの、海に親しむ所は多くあります。

近くの海岸、干潟、磯、河口、砂浜、岩場等少し目線を変えて「自然」を素直に見つめ直すと、いろいろなことが見えてきます。潮の香り、波打つ音さえも心を洗ってくれます。いろいろな海の表情に触れることをとおして、自然を大切にすることを育んでいきます。

### 1. 活動できる場所を探そう

日本海側には海上アルプスや磯があり、一帯を散歩するだけでも自然から学びとるものが多く、自然の豊かさを感じとることができます。日本海の海岸ならではのいろいろな遊びや活動をとおして、日本海の守りたい自然やその良さを感じとることができるような場所を取り上げます。

- (1) 海水 …………… 色、波、塩、におい、音、味、夕日など
- (2) 砂浜・海水浴場…………… 砂、小石、鳴き砂、砂の模様、貝殻、海藻、漂流物、ごみ、風など
- (3) 岩場、磯…………… 岩、浸食崖、小動物、波、地層のしまもよう
- (4) 河口、島…………… 野鳥、小動物、どろ、満ち引き →
- (5) 港…………… 工事された海岸、船 →

以上のような場所を使用するアクティビティを用意してみました。

### 2. 何をどう取り上げて 計画するか

#### 五感と心で

「見る」「触る」「臭う」「味わう」「聞く(聴く)」とともに、心で「感じ取る」等。(海の色、鳴き砂の音、波のリズム)

#### 遊びを取り入れて

自然への興味・関心を促す手だてとして、遊びやゲームを取り入れる。(たこあげ、風車、波と力くらべ)

#### もの作りの中から

自然物を造形素材として利用し、自然の豊かさ、多様さを感じ取る。(砂絵、風車、流木のかざり)

### 3. 「日本海編」で準備する一般的なもの

#### (1) 幼児・児童が準備するもの

鉛筆、クレヨン、バインダー、長靴、タオル、ハンカチ、ティッシュペーパー、軍手、スコップ、ナップサック、着替え等

#### (2) 指導者が準備するもの

アクティビティ集、ロープ、笛、マジック、色鉛筆、地図、トランシーバー(携帯電話)、ノート、ゴミ袋(大)、カメラ(デジタルカメラ)、双眼鏡、時計、図鑑、バケツ、救急箱、懐中電灯、拡大鏡(虫めがね、顕微鏡)、メガホン、呼子笛、救命具なども現場の状況に応じて準備……〈環境学習用として透明ケースに入れておくと便利です。〉

### 4. 安全への配慮を心がけよう

- (1) 危険な小動物(クラゲ、ゴンズイ等)を避ける。
- (2) 波打ち際での大波、磯のかき殻、ガラス瓶の破片等によるケガに注意する。
- (3) 天候や季節に配慮するとともに、潮の満ち引きの時間帯にも注意する。





# 日本海編

プログラム	アクティビティ	
1. 海からの メッセージ	① クリーンさくせん、GO！ ② ひょうりゅう物で作品づくり ③ ひょうりゅう物の展覧会	N1-1-(1~3) N1-2-(1~2) N1-3-(1~2)
2. 風と友達になろう	① 風車をつくろう ② 風と力くらべをしよう ③ 冬の空にたこたこあがれ	N2-1-(1~2) N2-2-(1~3) N2-3-(1~3)
3. 波にチャレンジ！ 大波・小波	① 波と遊ぼう ② 聴いてみよう波の音 ③ 波はとっても力持ち	N3-1-(1~3) N3-2-(1~3) N3-3-(1~3)
4. 海の色って どんな色	① 海を見に行こう ② 海にしずむ夕日に万歳！	N4-1-(1~5) N4-2-(1~4)

## 《アクティビティについて》

※各アクティビティの1ページ目は指導者用、2ページ以降は子ども用です。

※実施人数は指導者一人が担当できる、おおよその人数です。

※所要時間はアクティビティの実施時間で移動時間は含んでいません。

※バリエーションは指導者の工夫で行う、応用編にあたります。